

学校法人 東放学園

東放学園映画アニメCG専門学校 殿

2025年度 学校関係者評価報告書

東放学園映画アニメCG専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

【教育・学校運営に関する有識者/委員長】

月野木 隆行 学校法人東放学園 元理事
学校法人東放学園 東放学園専門学校 元校長
学校法人東放学園 東放学園映画専門学校 元校長

【就職先及び関連業界関係者】

関田 有應 株式会社 フェローズ アニメセクション アドバイザー シニアプロデューサー
鹿島 慶樹 株式会社 フェローズ アニメセクション マネージャー エージェント

【高等学校教諭】

早川 信一 学校法人昭和一高学園 昭和第一高等学校 教諭 入試広報室

【卒業生】

反町 恵里菜 2016年小説創作科 卒業生

2. 事務局

蒲田 直樹 校長
柳田 晃寿 教務教育部 部長
青柳 高広 学務管理部 部長
袴田 誠 学務管理部 (学校評価委員)

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

2025年11月14日(金) 15:00～18:00 東放学園映画アニメCG専門学校 就職資料室

4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

4. 学校関係者評価結果

【評定内容結果】

- 4 : 適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後更に向上させるための意欲がある。
- 3 : ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 : 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 : 全く対応しておらず不適切である。学校の方針から見直す必要がある。

I. 2024年度重点目標と達成計画について

- 重点目標1 映画校マンマンプロジェクト推進
- 重点目標2 募集を強化して入学者を増加する
- 重点目標3 カリキュラムの見直し

コメント

・重点目標および達成計画の設定は的確である。
 ・2Dアニメーションと3DCGアニメーションのハイブリッド制作において、教育環境の整備が進んでいることが分かる。
 ・募集の振るわない学科の停止と同時に、強化したい科目へ投資して改善を図る取組が明確である。
 ・募集の在り方には、時代の流れを敏感に捉え即応する柔軟さが必要である。学校は年度制のため動きが遅れる面もあるが、情報を常に取り入れ迅速に対応する姿勢が望まれる。
 ・現校舎の改修や実習室の移設など、学生の過ごしやすさや利便性が考慮されており、良い取組だと感じる。
 ・SNSでの発信について、入学希望者へのプロモーションと成果物の発表を同じアカウントで行うなど、運用を含め今後も注力すべき部分だと思われる。

II. 評価項目別取組状況について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

コメント

・人材育成目標の「クリエイター」が、現在の若年層・業界・業態に即したものであるかを検証し、定義を明確にして伝えるべきである。
 ・(事務局より)クリエイター育成について今一度検証し、新しい表現方法も含めて検討したい。
 ・アニメ制作プロダクションの新卒採用時期が早まっている。2年間のカリキュラムの中で、どのタイミングからどのように採用試験の準備と授業のバランスを取っていくかが今後の課題である。
 ・(事務局より)全学科1年次前期の段階から、就職講座で履歴書の書き方等の指導を行っている。アニメーション・CG科においては、ポートフォリオ作成時期を早めるなどの対応をしている。
 ・制作ツールが企業ごとに多様化しているため、引き続き企業との連携を強化してほしい。
 ・理念を的確に運用し、産学連携の強化と実践的教育を推進している。情報発信や露出の在り方を継続的に見直すことで、さらなる発展が期待できる。
 ・昨年度同様、現役クリエイターなどの外部講師の招致には、引き続き力を入れてもらいたい。
 ・創造性や個性と社会人教育の両立については、卒業後の進路によって求められるビジネスマナーの種類や程度が異なる。どの程度の水準が必要なのかも含め、各企業との連携が今後も重要になると感じる。

評定

3

基準2 学校運営

コメント

・校内組織の構築、情報共有の徹底、およびコミュニケーションの充実が、円滑な学校運営の鍵となる。
 ・校名変更や新学科設立など、組織体制の変動が続いている。そのため、方針の明文化や周知徹底については、例年以上に細心の注意を払う必要がある。

評定

4

基準3 教育活動

コメ ン ト	評 定
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの構築や人材確保、学校・学科特性の活用など課題は山積しているが、着実な改善を期待したい。 ・(事務局より)人材確保については、学科担当教員が学生ケアやコーディネートを担い、外部講師が実務指導を行うという役割分担のスタイルを確立していく。 ・資格取得も重要だが、アニメ・CG業界ではそれ以上に即戦力となる人材が求められている。使用ソフトの選定や授業時間の配分は、選考時の学生スキルに直結する重要な要素である。 ・教員の高齢化は他校でも共通の課題であると聞く。現場で活躍する現役クリエイターの採用に向け、多様な採用チャネルの検討が必要だと感じる。 ・業界連携とカリキュラム改善への意識は高い。今後は、教員研修の充実と、授業評価体制の全科目導入が課題となる。 ・授業評価アンケートについては、全科目での実施と、講師と連携した設問策定を継続して検討されたい。学校側と学生側の認識の差を把握することは、カリキュラム編成の参考になるだけでなく、学生のモチベーション維持にも寄与すると考える。 ・(事務局より)授業評価アンケートは、設問事項の見直しや実施科目・時期等を調整中である。あわせて、合理的配慮や留学生の日本語能力への配慮に関するガイドライン作成の参考とする。 	3

基準4 学修成果

コメ ン ト	評 定
<ul style="list-style-type: none"> ・映画制作科の卒業制作がフィルムフェスティバルでグランプリを獲得したことは、大きな学修成果である。専門学校の学修成果は、就職率のみならず、卓越した人材を輩出することも極めて重要である。他学科においても、対外的な評価に繋がるような成果を期待したい。 ・学修成果は、内定取得後、社会人となった卒業生の評価にも大きく寄与するものとする。 ・早期離職を防ぐためにも、将来のキャリアを見据えた指導が必要である。企業連携の強化や講話の機会をさらに増やすべきではないかと感じる。 ・就職支援と卒業生との連携が体系的に機能しており、着実に成果を上げている。 ・小説創作科特有の課題として、在学中にフリーランスとして自立できるだけの実績を積むことは、コンテストの規模や新人賞の頻度から見ても容易ではない。そのため、業界外企業への就職についても、1年次から定期的に働きかけを行うことが有効であるとする。 	4

基準5 学生支援

コメ ン ト	評 定
<ul style="list-style-type: none"> ・就職率や学生相談、中途退学者数など、本校にとって課題となる項目が評価を下げる要因となっている。 ・今後は、留学生へのさらなる支援の充実が期待される。 ・就職・学生支援ともに体制は整備されており、今後はデジタル化と個別対応の進展が期待できる。特にAIの活用などは、喫緊の課題として展開を急ぐべきである。 ・昨年度同様、カウンセリング体制については、専任カウンセラーの設置や来校頻度の向上を引き続き検討してもらいたい。 ・(事務局より)次年度より、週1回専任カウンセラーが常駐する体制を整える。 ・夏季の熱中症対策や体調不良への備えとして、保健室機能の一時的な拡充や、校医との連携強化などの対策を講じることも有効ではないかと感じる。 	4

基準6 教育環境

コメ ン ト	評 定
<ul style="list-style-type: none"> ・立地条件を鑑みれば、学校安全計画は速やかに策定すべきである。 ・動画職はCLIP STUDIO PAINT、3DCGソフトはアニメ業界の7割以上が3ds Maxを使用している。今後はBlenderの普及も進むと予測されるが、2026年度からの「カリキュラムマップ」を参照したことで、導入ソフトに関する疑問点は解消された。 ・教育環境整備においては、校舎の維持管理と防災体制が適切に運用されており、実習室の改修など学習環境の改善も見られる。今後は、設備の更新や研修機会の拡充を通じて、教育環境のさらなる充実を期待したい。 ・昨年度同様、災害対策については、定期的に対応方法を周知する機会を設けるべきである。特に特殊機器の緊急時の取り扱いについては、担当者不在時を想定し、学校全体で情報を共有しておくことが望ましい。 	4

基準7 学生の募集と受入れ

コメ ン ト	評 定
<ul style="list-style-type: none"> ・募集予算の減少により、厳しい状況にあると推察される。今後は、どの施策に重点を置くかという明確な戦略が必要である。 ・留学生のアニメ・CGプロダクションへの採用試験において、日本語能力試験(JLPT)の「N1」取得が必須条件となりつつある。 ・募集活動や選考基準は明確であり、公平性と柔軟性が確保されている。改善方策も具体的だが、今後は成果検証における効果測定の視点が加わると、より内容が充実する。 ・他学科での実施は工夫を要するが、小説創作科については、内容に応じて体験入学をオンラインで実施することも可能ではないかと感じる。今後の新たな募集施策として検討いただきたい。 	4

基準8 財務

コメント	評価
特筆すべきコメントなし。	4

基準9 法令等の遵守

コメント	評価
特筆すべきコメントなし。	4

基準10 社会貢献・地域貢献

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献や地域貢献まで十分に取組む余裕がないのが現状と推察される。 ・少しずつでも、関連団体との関係性を強化し、連携の輪を広げていくことを期待したい。 ・日本のアニメ文化をさらに発展させていく存在として、引き続き本校の教育に期待している。 ・ボランティア活動に関しては、この分野に精通した教員を配置し、適切な指導・対応ができる体制を整えることで、活動の継続性を維持できる。 ・学校施設の貸し出しは非常に需要が高い。一定の規定を設けた上で、貸出対象を広げることができれば、社会貢献としての価値を対外的にアピールできる。 ・ボランティア活動に学生が自発的に取り組むのはハードルが高い。例年一定の時期に開催される定例行事であればスケジュールも立てやすいため、まずは短期集中講座などで機会を設ける手法は非常に有効である。 	3

所感

<p>・昨年度に比べ「評価3」の項目が増加した。これを、問題点を的確に把握できた成果と捉え、2025年度以降の運営に活かしてほしい。この現状を「自己評価報告書」作成に携わった職員だけでなく全職員に浸透させ、学校全体で改善に取り組むことを期待する。</p> <p>・アニメーション・CG科の運営にあたり、どのようなシラバスで何を教えるかが重要である。アニメ領域とゲーム領域のCG教育は本来別物であり、日本独自の「ハイブリッド・アニメーション制作」を軸に据えた学科となることを願っている。</p> <p>・今後のアニメ業界において若手の力は不可欠だが、同様に海外人材の力も重要性を増している。国内・海外両方の学生が、即戦力として活躍できる技術とマインドを育めるような教育を期待したい。</p> <p>・在任期間中、貴校の教育内容や校風を深く理解し、適切な提言ができるよう努めたい。</p> <p>・昨年度を通じ、変化の激しい業界動向と組織としての制約との間で、バランスを取りながら改善策を提示することの難しさを実感した。在学中は短期間のため気づきにくい点であったが、毎年の改善の積み重ねが現在の運営に繋がっており、学生にとって非常に有益なことだと改めて感じている。</p>
--

以上